



6月に続いて新潟青陵幼稚園のこと、ちょっとご紹介いたしま〜す!

## 手作りおやつ(白ぼろ...4,5才児) 年中児

〜梅ジュースを作りました〜

昨年と同じように今年も梅ジュースを子どもたちの前で作りました。今年は氷砂糖だけでなく、黒糖も入れて黒糖梅ジュースにしました。手順をよく覚えていた子ども達。今年は梅のヘタを取りや砂糖を入れるところを手伝ってもらいました。少しずつ氷砂糖が溶け、飲み頃まであともう少し...待ち遠しく毎日ピンを眺めている子ども達です。

〜ニラせんべいを食べました〜

保育室でニラせんべいを作って、出来立ておやつを楽しみました。部屋で初めて作っている様子を見ていた子ども達。玩具のフライパンを片手に、私の動きを真似ている子どもたちも居て可愛らしかったです。水で溶いた小麦粉に2センチくらいに切ったニラと、細かく切った味噌漬を混ぜて、薄くフライパンで焼いたものです。もちもちとしたチヂミ様なおやつで好評でした。どうぞお家でもお子さんと作ってみてくださいね(^^)

演じやすいように遊戯室のカラーボックスを準備!積み木でおまごとの場所も作っておくと早速始まりました。チケットを入れる場所を書いた看板を貼って、より本物らしく準備を整えています。お客さんが来ると「チケット入れてくださーい」指し示し、手際よく進めていました。赤ばらさんもお客さんに来てくれました。

演じるのに熱が入るとどんどん動きが激しくなってきました。しばらく見ていたお客さんたちは「こわーい」という言葉を残し(担任たち)帰ってしまいました...

お客さんたちを楽しませるというより、まだまだ自分たちだけで楽しむ姿の4歳児さんですから、「あれ?帰っちゃった?」とい感じでした。『怖かったみたいだよ』と知らせると初めてわかった様子でした。

その後マリリンピアのショーにして赤ばらさんには怖くないものを、少し意識している様子です。

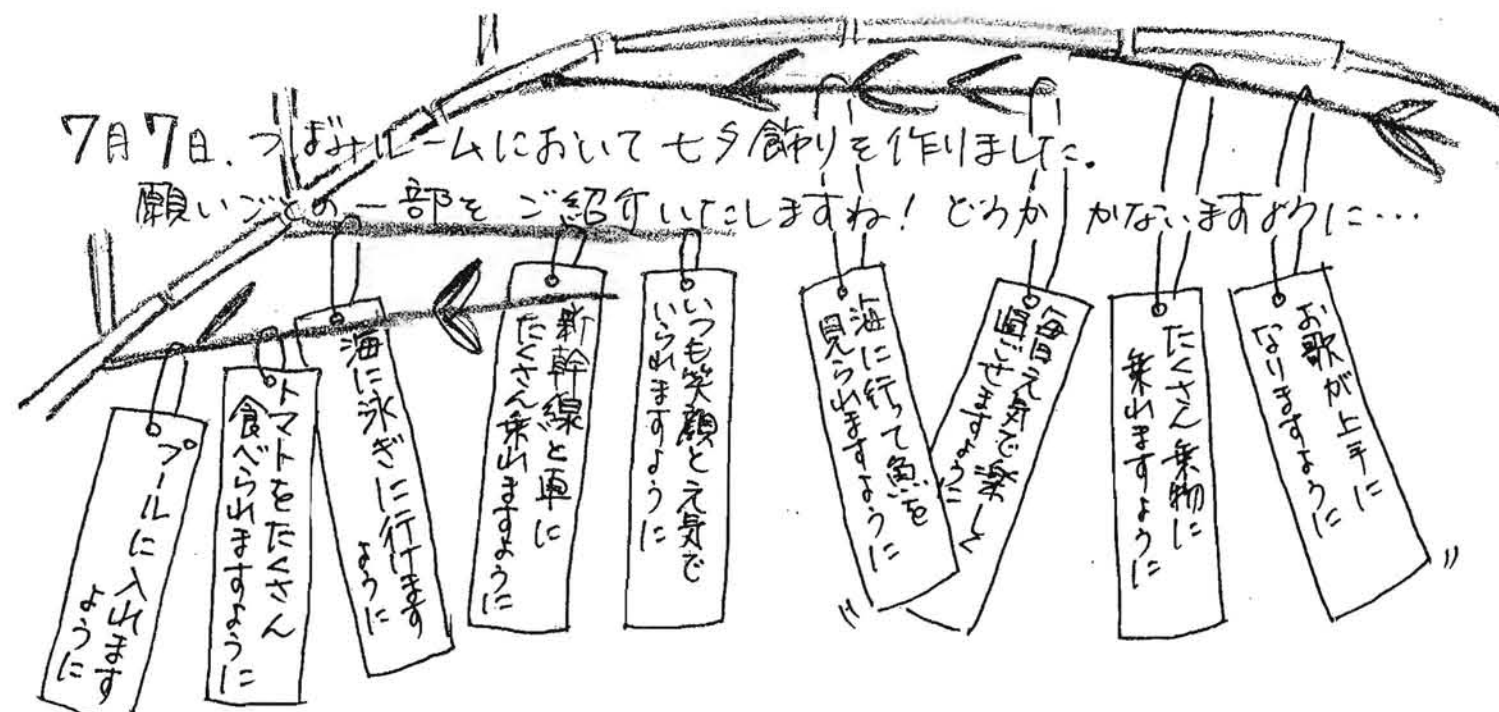
その日によってチケット作りをひたすらする子がいたり、お客さんがきたよーと知らせる子がいたり、お客さんになる子がいたり...また、じっくりとその遊びの様子を見ていて、お家で再現してます!とお母さんも教えていただきました。子どもたち自らが創る遊びだからこそ、いろいろな姿で楽しむことが、限りなくできるんですよ。

白ぼろのゴッ  
遊びの様子です。  
映画館ゴッから  
水族館ゴッへと  
遊びが続いて  
いきましょ。

## お散歩・よもぎ摘み (青ぼろ...5,6才児) 年長児

白ぼらさんとよもぎ摘み、お散歩に行ってきました。

その日の午後、茹でている時のいい香り、お湯に入れた時のきれいな緑、茹で汁の色、なども子ども達に体験して欲しいな〜と思い、子どもたちと協力してよもぎを選別して、目の前で茹でました。お湯の中によもぎを入れるとサ〜ときれいな緑に変わり、だんだんいい香りが...「いいにおいがしてきたよ」と言う「ホントだ!!!いいにおい」「おいしそう」と言うことで。茹でたてのよもぎを少しずつ味見してみました。私もそのまま食べるのは初めてだったのですが、よもぎのいい香りがしましたよ。何にでも興味を示しやってみたいという子ども達の好奇心。出来ることであればやらせてあげたいなと思いました。



## 園長先生の(園日記)から...

外遊びの時間に、疲れたので少し休みたいと小さなお客様が二人、職員室にきてくれました。疲れがでてくる時期ですし、おまけに週末の金曜日でしたから無理もないことです。二人にお茶をだして、そして本を読みました。(中略)

しばらく3人でゆったりとした時間を過ごしていると...給食の時間になったので、二人とも自分のクラスに戻っていきました。たくさんたくさん人がいる場所は疲れやすいものです。時に、ほんの少し休息をとることも必要になります。

職員室でふ〜つとひと息ついて また集団の中へ戻っていく「けなげな子どもたちのうしろ姿」に、心の中で ガンバレ〜...♡

子どもたちが、職員室に入ってこられるようになるということは、子どもの世界が広がって、ずいぶん慣れてきた証拠なのです。子どもの自然な姿からは、心の状態がよくわかります。自分で...自分から...という子どもの内面の働きによるものなのです。この内面の働きができるように...と願って 私たち保育者は、大人の威圧的な態度で、子どもを動かすことをできるだけ避けているのです。子どもの心がよく表れると、一人ひとりに何をしてあげたらいいのかが分かります。大人が自分の思いで、子どもを言うとおりにさせていると、この内面の働きがとどまってしまいます。子どもの本当の思いに気づくことができなくなります。子どもの気持ちと大人の気持ちとがずれてきてしまいますね。子どもの思いを感じながら、正しい方向へ導くことが子どもたちの内面を育てることなのだと思います。

## ほめるということ

ほめられていると、もつとほめられなければ気がすまなくなり、さらにほめられることを求めるようになります。ほめる人がいないところではやらなくなります(つまり、ほめられるからやるという行動)本当の意味での意欲は少しも育ちませんね。やがて一人で生きていかなければなりませんのに、人におだてられないと生きられないようでは自立できませんね。

ほめる言葉より、出来たことを一緒に喜ぶ言葉(うれしいね〜、できたね〜等)のほうが子どもはもっと嬉しいはず。

※7月14日(木)  
海で遊んだ  
写真を次号に  
載せたいと  
思っています。  
都合の悪い方  
はお申し付け。